

強者の戦略

【第1回】英作文 解説（上本）

前書き

さて、どう書きましたか？ 対象としては高校1年生・高校2年生を中心に、高校3年生でも楽しめるような解答解説にしました。**今持っている知識でどう書くか**（手持ちの知識を駆使して書ける英文レベルからの視点）と、**洗練された答案にはどのような工夫がなされているか**（目指したい英文レベルからの視点）という2つのアプローチで展開したいと思います。問題文は以下の通りでした。

【問い】 以下の和文を英訳せよ

私たちには、勉強はしんどいもの、今苦しくとも将来のためにがんばるものといった刻苦勉強型のイメージがしつこく残っています。考えてみれば、**将来の幸福のために今苦しむという形でしか勉強を受け入れられないのは不幸なことなのです。私たちはただそれにならされてきただけではないでしょうか。**

Bottom-up approach : 今持っている知識でどう書くか

1 「形」をどう書くか

ここでの「形」は直訳できなさそうなので、文意を変えないように別の語に置き換えます。「将来の幸福のために今苦しむ」ことが「勉強を受け入れ」る**手段**となるのですから、**by Ving**の形で「今苦しむこと**によって**」とすることが可能です。by Vingは便利な表現です。**手段としての接続**であれば利用することができるので、タイミングを計って使ってみてください。

2 「苦しむ」をどう書くか

「苦しむ」と言えば *suffer* が思いつきそうです。ただし用法上、注意が必要で「苦しむ」ならばいつでも *suffer* というわけではありません。*suffer* は「**(病気や怪我などで肉体的に) 苦しむ**」とか「**(悲しみなどによって) 身を切られるような思いをする**」といった意味を持ちます。文字通り「苦痛」という感覚で、かなり消極的な使い方をします。

厳密に言うと、ここでの「苦しむ」は「勉強を我慢して続ける」などの「**耐える**」のニュアンスで書かれています。「我慢する」の表現としては *endure A* や *put up with A*、*bear A* など、また「つらい時期を過ごす」では *have a hard time* など、この文脈での「苦しむ」に相当する表現があります。また、精神

強者の戦略

的に「苦しむ」の意味で使うことができる **distress oneself [be distressed]** も使うことができます。suffer が **消極的な意味での「苦しむ」** であるのに対して、endure が **積極的な意味での「堪え忍ぶ」** なので、今回は「刻苦勉励」という前向きな姿勢をよく表現している endure を使うことにします。

③ 「～ではないでしょうか」をどう書くか

「～だろうか」の書き方を大別して3通り紹介しますね。

1. 疑問文を使う——主に 回答を求める疑問文 として
2. I wonder ④ SVを使う——回答を求めるわけではない 心中での疑念としての文
3. 主張の表現を使う——言いたいことが明確で、断定の気持ち が含まれる

1. は幅広く使うことができるので、今回の文脈でも利用可能です。Bottom-up approach の解答例は1. の疑問文を使った書き方にしました。

また、先に触れておきますが、Top-down approach の方では3. 主張の表現として、in my opinion を使っています。「私の意見では」という一言で、断定したい気持ちを前面に出し、**私個人の意見**であることを明示しながら「～ではないでしょうか」が含み持つ、**相手側からの反論の余地を残す**口調になります。in my opinion を置くことによって、断定的に「それにならされてただけなのです」という反論の余地を残さない 客観的事実であるかのような言い方との違い を表現しています。

◆上記①～③を利用し、文法面に注意しながら解答を作成すると以下のような英文が書けます。

It is unfortunate that we accept to study only by enduring now for happiness in the future.
Haven't we been just accustomed to it?

強者の戦略

Top-down approach : 洗練された答案にはどのような工夫がなされているか

Unfortunately, we accept to study only by having a hard time now in order to be happy in the future. In my opinion, that is merely because we have been brought up to be accustomed to the way of thinking.

1 「将来の幸福」「今苦しむ」の対比を捉える

Bottom-up approach では”enduring now”と”for happiness in the future”としましたが、Top-down approach では”having a hard time now”と”in order to be happy in the future”で表現しました。「今」と「将来」が時期として対比的な内容になるので、その対比を明確にして書いています。形容詞hard（つらい）とhappy（幸せだ）が品詞の点で揃っているのも、前者よりも後者の対比の方がより明確なものになり、英文にメリハリが出ます。日本語をよく噛み砕き『伝えたい箇所』にパンチを利かせた英作文に仕上げています。

2 「～なのは不幸なことなのです」文修飾副詞のバリエーション

「[SV～] なのは不幸なことだ」を表すために”It is unfortunate that SV”という形式主語構文を用いる事もできますが、そこからの書き換えも可能です。**文修飾副詞**を使った書き換えで、例として次のようなものがあります。

It was unfortunate that they ran into a snowstorm along the way.

「彼らが途中で吹雪に遭った**のは不幸なことだ**」

⇒ **Unfortunately,** they ran into a snowstorm along the way.

「**不幸にも**彼らは途中で吹雪に遭った」

このようにして、”It is ㊦ that SV”の㊦は副詞化して文頭に出せるものもあります。

文修飾副詞の利用がどのような時に有効かというと、特に that 節中にさらに小さい句や節が含まれ、文構造が複雑になってしまうような時になります。以下に例を挙げます。

Unfortunately, as I was going out it began to rain. 「出際にあいにく雨が降りだした」

⇒ **It was unfortunate that** as I was going out it began to rain.

unfortunate を文修飾副詞として前にくりだしてしまっただけの方が、文全体としてシンプルになりますね。

It is ㊦ that SV ⇔ **文修飾副詞**の書き換えができる主な語を次のページにまとめておきます。

強者の戦略

◆ It is ② that SV ⇔ 文修飾副詞の書き換えができる主な語

1. 話者〔筆者〕の感想を表す副詞

例) fortunately SV ⇔ It is fortunate that SV : ありがたいことに／SVなのは幸運だ
unfortunately SV ⇔ It is unfortunate that SV : 不運にも／SVなのは不幸なことだ

2. 主観的判断を表す副詞

例) importantly SV ⇔ It is important that SV : 重要なことに／SVなのは重要だ
naturally SV ⇔ It is natural that SV : 当然ながら／SVなのは当然である
rightly SV ⇔ It is right that SV : 当然ながら／SVであることが正しい
significantly SV ⇔ It is significant that SV : 重要なことに／SVなのは重要だ
strangely SV ⇔ It is strange that SV : 不思議なことに／SVなのは奇妙だ
unexpectedly SV ⇔ It is unexpected that SV : 意外にも／SVは予想されていない

3. 可能性に関する副詞

例) apparently SV ⇔ It is apparent that SV : ①見たところは～らしい②明らかに
／SVなのは明確だ
certainly SV ⇔ It is certain that SV : 確かに／SVなのは確実だ
clearly SV ⇔ It is clear that SV : 明らかなことには／SVなのは明確だ
evidently SV ⇔ It is evident that SV : 明らかに／SVなのは明白だ
probably SV ⇔ It is probable that SV : おそらく／SVなのはほとんど確実だ
obviously SV ⇔ It is obvious that SV : 言うまでもなく／SVなのは明白だ

3 「ただそれにならされてきただけ」を正確に書く

一番の悩みどころだったのではないのでしょうか？「**ならされてきた**」が受動的な書き方なので、be accustomed to A で書いて間違いではありません。しかし、この文脈に見られるような、明らかに受動の訳出を要求するような文脈で be accustomed to A 「A になれている」が望ましい構文選択であるかという、疑問が残ります。そう思いませんでしたか？

よく考えれば「ならされてきた」という日本語は、そのまま英語に直訳するには言葉足らずな感じがします。そこでこう言い換えればどうでしょう？「なれるように**育てられてきた**」こうすれば、そこに含まれる物足りなさを補充することができます。「成長する」関係で思い当たる構文としては、不定詞結果の用法 **grow up to V** と **be brought up to V** が候補として上がりますが、後者の方が受動の感覚をより強く含むので、後者を選択して英訳します。次のページにこの説明を載せておきますね。

強者の戦略

参考 他動詞の受動形と自動詞

他動詞の受動形と自動詞との違いを be raised と rise を例にとって説明を挟みます。

{	Taxi fares will <u>be raised</u> .	※will rise は不自然
	The sun <u>rises</u> in the east.	※is raised は不自然

どちらも「上がる」で訳しますが、英訳するときには書き分けをします。「タクシー料金が上がる」のは運営する会社など、**賃上げの決定をする動作主**がいて、それによる行為によるものです (rise だと運賃自体がそれ自体の意志で上がっていくような意味になります)。ですので、この文に by the company などが明記されていなくとも be raised を用いて書きます。それに対して「太陽が昇る」のは**太陽自体の行為**であり、他の何者かによって上げられているわけではないので、自動詞 rise が使われます。まとめると以下の通りです。

{	他動詞の受動形 (Ⓜbe raised)は「Sが 他の動作主によって Vされる」
	自動詞 (Ⓜrise)は「Sが それ自体の行為として Vする」

別の動作主が意識されるか、あるいはS自体の行為とするかで、日本語では同じ「上がる」という表現でも、英語では書き分けをしています。

さらに別のポイントに移ります。どうでしょう？「ただ～だけ」も気になりませんでしたか？これは何を限定しているのか、「ただ→なれる」なのか「ただ→育てられる」なのか。……どちらもしっくりこない感じがします。そこで次のように考えます。

下線部第1文「今耐えることによってしか勉強を受け入れられない」

下線部第2文「それはただ単にそうなるように育てられたからである」

じっくり考えれば、下線部第2文が下線部第1文の理由説明になっていることが分かります。このことから「ただ単にSVという理由で」とする”That is merely because SV”を使って書くことができます。

「文と文の繋がり方に応じて論理関係を明確にしながらかく」ことを意識すると、さらに一層レベルの高い英作文を追究できるようになります。「ただ」もここにうまく絡めて捌くことができます。

後書き

いかがだったでしょうか？ 深く深く掘り下げれば、英作文はとても面白い問題形式になります。本文では「刻苦勉励のイメージ」とか言っていましたが、僕は勉強好きでしたよ。とくに英語はね(笑)。掘り下げるほどに味わいが出る、知れば知るほど奥深さが増す、あの感覚をよく覚えています。

さて次回予告ですが、次回も深い内容で展開していきたいと思えます。今回は前置詞のイメージを追究しようと考えています。今回の英作文で重要な役割を果たした前置詞を扱いますね。それでは、また。